

## 栃木県及び周辺の地震活動（令和 8 年 2 月）

### 【地震活動概況】

今期間に県内で観測した最大震度は 3 でした。期間内に県内で震度 1 以上を観測した地震は 8 回（前月 7 回）、震度 3 以上を観測した地震が 2 回（前月なし）ありました。

### 【栃木県及び周辺の地震活動】

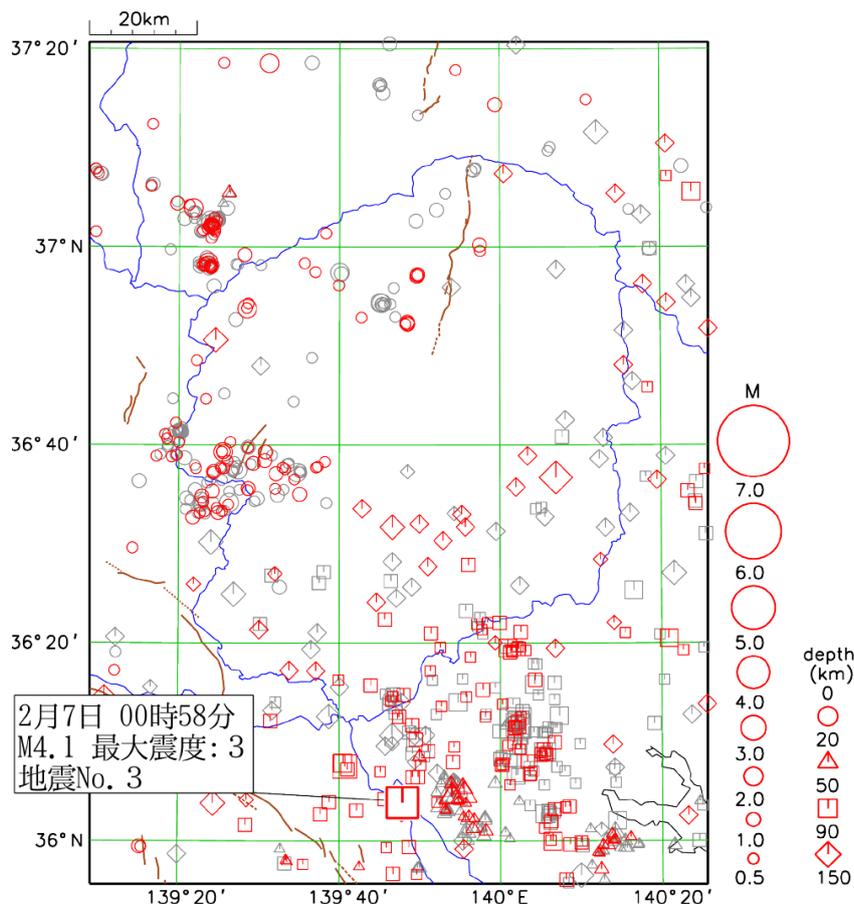


図 1 震央分布図（2026 年 1 月 1 日～2026 年 2 月 28 日）

- ・今期間の地震活動を赤色で、前月の地震活動を灰色で示しています。
- ・図中の吹き出しを付けた地震は、県内震度観測点で震度 3 以上を観測した地震及び県内を震源とする震度 1 以上を観測した地震です。地震 No. は県内で震度 1 以上を観測した地震のリストに対応しています。
- ・M はマグニチュードで 0.5 以上、深さ（depth）は 150km までの地震を示しています。
- ・図中の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

本資料は国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。※データについては精査により、後日修正することがある。また、本資料中で使用している地図は、『数値地図 25000（行政界・海岸線）』（国土地理院）を加工して作成した。

## 【2月に県内で震度1以上を観測した地震のリスト】

地震No.	発震時		震央地名	北緯	東経	深さ(km)	マグニチュード	国内最大震度	県内最大震度
	月日	時分							
1	2月3日	18時03分	茨城県沖	36° 43.7'	140° 57.3'	51	4.8	3	3
2	2月5日	9時19分	千葉県北東部	35° 40.3'	140° 24.9'	67	4.5	2	1
3	2月7日	0時58分	埼玉県南部	36° 03.8'	139° 47.8'	80	4.1	3	3
4	2月8日	10時59分	茨城県沖	36° 19.8'	141° 51.2'	2	4.9	1	1
5	2月9日	21時27分	埼玉県北部	36° 07.5'	139° 40.7'	87	3.3	1	1
6	2月15日	11時52分	茨城県南部	36° 04.6'	139° 55.5'	47	3.7	2	2
7	2月25日	16時48分	茨城県南部	36° 04.5'	139° 54.0'	46	3.1	1	1
8	2月26日	5時24分	茨城県南部	36° 04.4'	139° 53.9'	47	3.2	1	1

・各地震の震度1以上を観測した観測地点名については、気象庁HP「震度データベース検索」により確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/index.html>

## 【震央分布図範囲内の地震】

### 1. 埼玉県南部（地震No. 3）

7日0時58分に埼玉県南部で発生した地震（深さ80km、M4.1）により、栃木県、群馬県、埼玉県で震度3を観測したほか、関東地方と山梨県、静岡県で震度2から1を観測しました。栃木県では下野市で震度3を、10市町で震度2を、8市町で震度1を観測しました（図2）。

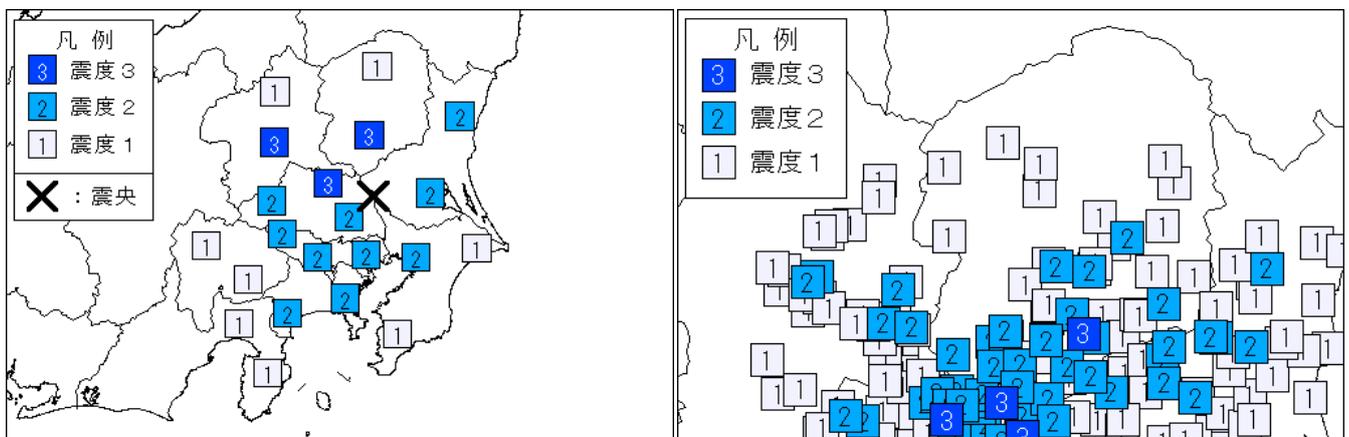


図2 7日0時58分 埼玉県南部の地震 左図：地域震度 右図：地点震度

## 【震央分布図範囲外の地震】

### 1. 茨城県沖（地震No. 1）

3日18時3分に茨城県沖で発生した地震（深さ51km、M4.8）により、栃木県、福島県、茨城県で震度3を観測したほか、宮城県から関東地方にかけてと山梨県で震度2から1を観測しました。栃木県では宇都宮市、真岡市、大田原市、益子町、市貝町、高根沢町で震度3を、14市町で震度2を、5市町で震度1を観測しました（図3）。

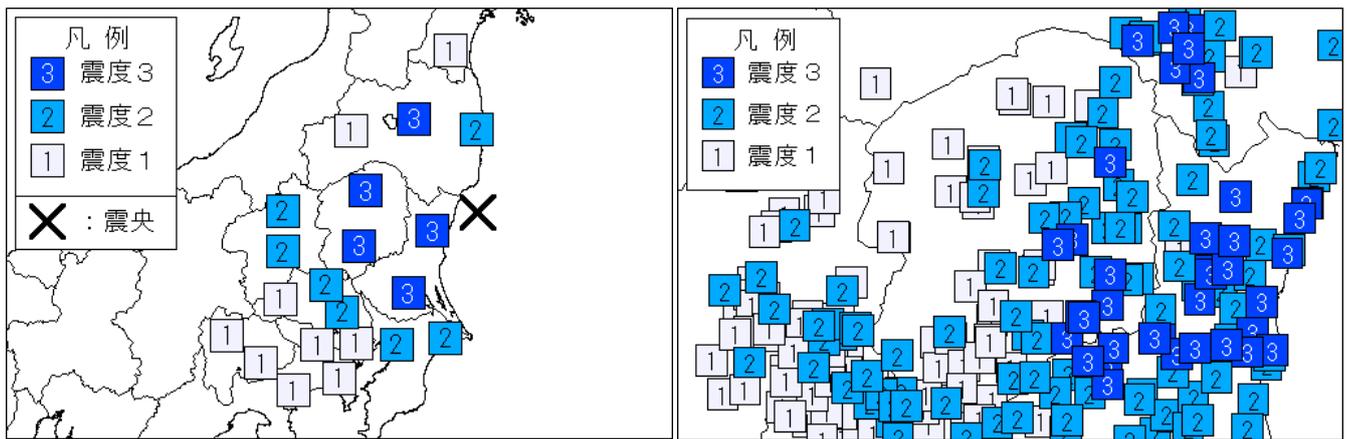


図3 3日18時3分 茨城県沖の地震 左図：地域震度 右図：地点震度

### 【防災メモ】新年度に備えて緊急連絡先の更新・確認を

年度末は進学・就職・転勤・引っ越しなどで生活環境が大きく変わる人もいます。このタイミングで取り組んでおきたい防災対策の一つが「緊急連絡先の更新・確認」です。

今から15年前の東日本大震災では、電話が繋がらず、家族や知人の安否が分からない状況が長く続いた人が多くいました。携帯電話があっても、番号を覚えていない、古い連絡先だったという理由で連絡がとれなかったケースも少なくありませんでした。

災害はいつ、どこで起きるかわかりません。いざという時に確実に連絡をとるためにも、家族・親族・職場・学校など緊急時に連絡をとる相手の情報が最新のものになっているか、この機会に確認しておきましょう。

現在では連絡先をスマートフォンに保存しておくのが一般的になりつつありますが、災害時には必ずしもスマートフォンが手元にあるとは限らず、電池切れや故障などで確認できなくなることも考えられます。そのため、重要な連絡先は紙にも書き出し、非常持ち出し袋や財布に入れておくことをお勧めします。

また、災害時には被災地への電話が殺到して回線が混雑しますので、連絡先を知っていてもつながりにくい状況となります。そんな時に役立つのが、災害用伝言ダイヤル「171」です。毎月1日、15日などに体験利用が可能ですので、災害時に備えて利用方法を確認しておくで安心です。

緊急連絡先の更新や連絡手段の確認は、命を守り安心をもたらす小さくても確実な備えとなります。年度末の今こそ、ぜひ確認しておきましょう。

- ・ 災害用伝言ダイヤル（171）（NTT東日本HP）  
<https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/>
- ・ 災害用伝言サービス（総務省HP）  
[https://www.soumu.go.jp/menu\\_seisaku/ictseisaku/net\\_anzen/hi\\_jyo/dengon.html](https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/net_anzen/hi_jyo/dengon.html)
- ・ 地震から身を守るために  
[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/jishin\\_bosai/index.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/jishin_bosai/index.html)

**171**  
災害用伝言ダイヤル

自宅や外出先から、電話で「171」をダイヤル

災害用伝言ダイヤル「171」は、災害発生時に家族、知人などの安否を確認する“声の伝言板”です。災害時は全国から被災地への電話がつながりにくくなります。もしもの時に備え、ご利用方法を覚えておいてください。

■伝言の録音方法

**171** をダイヤルする  
↓ ガイダンスが流れます

録音の場合 **1** 暗証番号を利用する録音は **3**

↓ ガイダンスが流れます

連絡を取りたい被災地の方の固定電話番号または携帯電話・IP電話の番号をダイヤルする。

**0**

**0**

↓ ガイダンスが流れます

プッシュ回線の場合は **1**

ダイヤル回線の場合はダイヤル不要

↓ ガイダンスが流れます

伝言の録音をする(30秒以内)

■伝言の再生方法

**171** をダイヤルする  
↓ ガイダンスが流れます

再生の場合 **2** 暗証番号を利用する再生は **4**

↓ ガイダンスが流れます

連絡を取りたい被災地の方の固定電話番号または携帯電話・IP電話の番号をダイヤルする。

**0**

**0**

↓ ガイダンスが流れます

プッシュ回線の場合は **1**

ダイヤル回線の場合はダイヤル不要

↓ ガイダンスが流れます

伝言の録音内容を確認する

※ NTT東日本・NTT西日本の電話サービスから伝言の録音・再生をする場合の通話料は無料です。他通信事業者の固定電話、携帯電話から発信する場合、通話料については各通信事業者にお問い合わせください。なお伝言録音等に伴うサービス利用料は無料です。

図4 災害用伝言ダイヤル（171）の使い方  
NTT東日本作成パンフレットより。

<https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/images/171pamphlet.pdf>

資料についての問い合わせ先 : 宇都宮地方気象台 電話 028-635-7260